

研修会報告書	2019年度	作成者 高崎 健司
研修会名	2019年度 第一回病理細胞診部門学術研修会 「特定化学物質のリスクアセスメントと作業環境測定の実態について」	
担当分野	病理細胞診部門	
開催日時	2019年7月27日(土) 14:00~17:00	
開催会場	宮城県立こども病院 愛子ホール	
参加人数	会員36名、非会員1名、 合計37名	
研修内容 (感想を含めて)	<p>本研修会は平成28年6月に施行された労働安全衛生法改定において「労働災害を防止するため化学物質についてのリスクアセスメント」が義務づけられた。病理細胞診部門では該当する化学物質を取り扱う事が多いため会員への周知を目的として開催した。</p> <p>1. 特定化学物質障害予防規則をはじめとした法規制による管理は誰のために行うのか？</p> <p>講師：長寿樹 (株式会社 ファルマ)</p> <p>病理細胞診部門では化学物質を取り扱っており、医療法以外に毒物および劇物取締法、消防法、労働安全衛生法(化学物質のリスクアセスメント、特定化学物質障害予防規則、有機溶剤中毒予防規則)労働基準法(女性労働基準規則)、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、水質汚濁防止法、下水道法、特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律など様々な遵守すべき法律、規則について講演いただいた。劇毒法については、該当する薬品を鍵付き薬品庫に保管し、薬品庫と薬品容器に医薬用外劇毒物と白地赤文字で表記。入庫と使用時には出入庫管理記録台帳へ記録し盗難、紛失を把握。製品のSDSの保管と準じた内容の掲示し取り扱いの注意や災害時に対処可能にしておくなど。消防法については、主にエタノール、キシレン、代替キシレン、アセトンが該当し、ほとんどの医療機関で貯蔵施設に該当せず貯蔵量を超えている施設も散見されるため注意が必要との事であった。特化則、有機則については、病理細胞診の検査室は除外にあたらないため年2回の作業環境測定、特殊健康診断、プッシュプル、局所排気装置の使用など。医療法でも化学物質のみならず試薬管理台帳、測定標準作業書、測定作業日誌が義務づけられているため、ホルマリン、キシレンなどの曝露軽減についても併せて作成することが望ましい。これらの法令を遵守する事は事件、事故や健康被害から自分たちの身を守るという意識で行っていきたい。</p>	

	<p>2. 当院の「ホルマリン曝露対策」 —法定作業測定を用いた作業環境改善法— 講師：戸村 弘樹（大崎市民病院 臨床検査部）</p> <p>ISOの要求事項（5.2.1）に「検査室の要員、患者、訪問者の健康と安全を確実にするようにデザインされていなければならない。」また、「スタッフの健康に影響を与える可能性がある場合は環境条件を監視し、管理し、記録しなければならない。」とある。大崎市民病院での特定化学物質および有機溶剤、劇毒物管理の曝露対策の実態について講演いただいた。施設が特化則、劇毒法、有機法を遵守しているか、感染対策が適性になされていることを確認する内部監査の方法。また環境測定においても作業の種類、作業量を明確にして原因と対策の評価サイクルを構築。施設を設計する機会を逃さずにホルマリン対策をする事が重要だと感じた。また、手術室でホルマリン使用を減らす取り組みもされており病理細胞診以外の医師、看護師との協力の必要性について講演していただいた。</p> <p>3. 当センターのリスクアセスメントへの取り組み 講師：野村 亘（宮城県医師会健康センター 検査科）</p> <p>平成28年に化学物質のリスクアセスメントが義務化され、ISO取得の際にも「危険有害性のあるホルマリンやキシレンに対するリスクアセスメントが実施」が必要要件であった。化学のリスクアセスメントについて、実施体制、実施時期、対象の選定、情報の入手、危険性または有害性の特定、リスクの見積り、リスクの低減措置の検討・実施、リスクアセスメント結果の周知などを具体的に講演いただいた。</p> <p>4. 当院の作業環境整備の過程と現状 講師：多田 耕一（山形市立病院済生館 臨床検査室）</p> <p>ホルマリンの作業環境整備について実際に取り組んだ内容について講演いただいた。プッシュプル型排気装置の設置や排液タンクの密閉など病理細胞診部門だけで行う運用の工夫では根本的な解決にはいならず病院の安全衛生委員会に問題提起し設備工事を行い組織的な取り組みで改善した内容であった。ホルマリンやキシレン対策には少なくない金額が必要になるため病理細胞診部門だけでなく施設として取り組まなければならないと感じた。</p>
<p>総括</p>	<p>特定化学物質に対する作業環境整備については病理細胞診部門での法令遵守や事故防止、健康を守るための非常に重要なテーマであり大変有意義な研修会であった。</p>